熱戦149手 藤井棋聖制す

木村王位の粘り振り切る

第61期 王位戦 第3局

18歳の勢いが止まらない。7月に最年少タイトルを獲得した藤井聡太棋聖は、木村一基王位(47)と争う第61期王位戦でも開幕から破竹の3連勝を達成。二つ目のタイトル奪取へ、あと1勝と迫った。（1面参照）

中盤までお互いの出方を探り合う展開が続いた。後半に入ると、藤井が攻め続けて優位に進めた。受け(守り)を身上とする木村が相手の攻めをかわし続け、一時は劣勢を覆すかに思われた場面もあったが、藤井は勝利をたぐり寄せた。終わってみれば149手に及ぶ大熱戦に。

控え室では、立会人の淡路仁茂九段(70)と副立会人の都成竜馬六段(30)が対局を検討。テーブル上に盤面を広げて、両対局者の視点に立って駒を動かす。「難しい手だ」と、一手一手の意味を探る。木村が驚異の粘りを見せる姿に、淡路九段が「逆転するのでは」とうなる場面もあった。

2日間にわたって繰り広げられた有馬決戦は、藤井が親子ほどの年齢差がある大先輩・木村を振り切って幕を下ろした。

タイトル奪取へ王手をかけた藤井は「途中から手の調子はいいと思ったが、誤算があった。これまでの将棋を反省して、第4局はいい将棋を指したい」と熱戦を振り返った。

第4局が背水の陣となる木村は、藤井の印象を「しっかり指されたなという感じ。後はなくなったが、いつも通りやる」と話した。

（津谷治英）

木村一基王位(右)を破り、二冠目の王位奪取に王手をかけた藤井聡太棋聖＝5日夜、神戸市北区有馬町、旅館「中の坊瑞苑」(撮影・鈴木雅之)

【夕刊後の指し手】

▲藤井 △木村 (50—149手)

(消費時間10分未満は省略)

▲6八角38 △3三銀16
▲4六歩 △6二銀10
▲4七銀 △2四銀21
▲4五歩24 △5三銀
▲同 桂 △同 歩
▲2五歩 △4四銀
△1三銀

【夕刊終了図】

49手▲2九飛まで

△木村 ナシ
▲藤井 歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一		桂					玉	桂	香	
二		飛				角	金	銀		
三			銀			金		歩		
四	歩		歩	歩	歩	歩	歩		歩	
五		歩								
六	歩		歩	歩	歩	角	歩		歩	
七		歩	銀	金		歩	桂		香	
八			玉		金	銀				
九	香	桂						飛		

【投了図】

▲5九角 △2二玉27
▲4六銀 △6五歩15
▲同 歩 △7三桂
▲3五歩39 △同 歩64
▲1五歩 △同 歩
▲3三歩 △同 桂
▲同桂成 △同 銀
▲3五銀 △5三角10
▲2六角 △3四歩
▲4四歩 △4二金引
▲4五桂 △3五歩
▲5三桂成 △同 銀
▲3四歩12 △同 金
▲1五角 △6二銀25
▲2四歩22 △同 銀

149手▲8八玉まで

△木村 金銀桂 歩五
▲藤井 香

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香					馬			香	
二		飛		銀		銀				
三			桂			歩	金		玉	
四	歩		歩		歩			歩		
五		歩		歩		馬	歩		歩	
六	歩		歩	金	歩	飛				
七		歩	銀				龍			
八		玉								
九	香	桂	金							

▲同 角 △同 歩
▲1一香成 △2五桂
▲8四香 △6六桂
▲同 金 △8四飛
▲2六桂 △3三玉
▲3四桂 △3六角
▲5七金15 △1八角成
▲2六飛 △1七馬
▲2九飛 △1八馬
▲7九飛 △3七桂成
▲6一角 △4四金
▲5二角成 △8二飛
▲4二桂成 △同 金
▲2二銀 △3二玉
▲2二銀打 △2二玉
▲4二馬 △3四玉
▲1五金 △2三玉
▲4六金 △3三銀
▲5二馬 △4三歩
▲3二銀成 △1四歩
▲3三成銀 △同 玉
▲4五歩 △同 金
▲同 金 △同 馬
▲4二銀 △2三玉
▲4九飛 △4六香
▲3三金 △1三玉
▲4一馬 △1五歩
▲4六飛 △7九金
▲8八玉

まで149手で藤井棋聖の勝ち

141手目で好転

藤井聡太棋聖の話 4五桂(83手目)から5三桂成(85手目)と手順に桂馬がさばけたが、3四歩(87手目)がやり過ぎだった。2一銀打(121手目)に対し、2二玉(122手目)と取られてから2三玉(124手目)とされて負けにしてしまったが、4九飛(141手目)と回って好転した。

相手の構想が秀逸

木村一基王位の話 2四歩(41手目)から歩を交換されて損をしたなと思っていた。5九角(63手目)と引いた相手の構想が秀逸だった。攻められっぱなしになったが、諦めてはいけないと思って6二銀(90手目)とした。終盤にチャンスがあったとしたら残念だったと思う。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。